



2016年11月12日、運命の初フライト記念! 中央は椋本校長。この日の気持ちを忘れないよう、フライトネームは「SKY68」に。



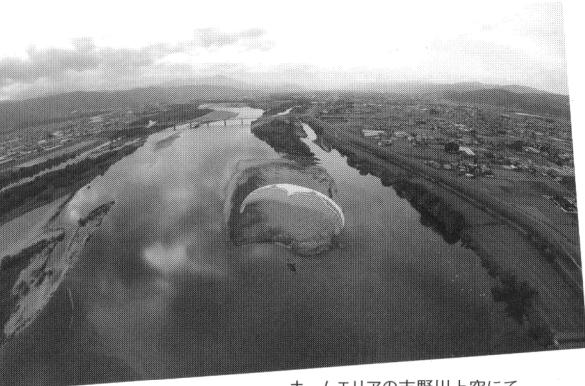
出会いは 那賀川の河口

、丁寧に教えてくれた
理解できたなんですが、
困ったことに身体が
ついていかないんで
す」と古川おやじは
当時を振り返る。
「私より1ヵ月ほど
後から始めた若い人
が、私を追い越して
ステップアップして
いきました。あー、やつ
ぱり若い人には敵わ
んわー、と言いたいなが
ら羨ましかったです」

そして初フライト成功
2016年3月、練習再開。夏の暑さ
にも負けずエリアへ行くが、怪我が怖く
てつい地上練習ばかり。そんな古川おや
じを見かねた棕本校長が、「何とか飛ば
してやろう!」と土手の斜面を利用した
「ノーエンジン滑空着地」を提案。この練
習を繰り返すうちに、自信と希望が出て
きた古川おやじは、10月にタンデム飛行
を体験、11月についに初のソロフライト
の日を迎える。

活へ入ることとなつてしまつた。
しかし、そこで終わらないのが古川お
やじのすごいところ。体調が回復したあ
と、「いつまでもヤンバルクイナではい
けない。もう一度頑張ろう!」と決心。
年齢は68歳になつていた。

An aerial photograph showing a wide river flowing from the bottom right towards the top left. The river's edge is lined with dense vegetation and small buildings. In the background, a range of mountains is visible under a cloudy sky.



ホームエリアの吉野川上空にて。

緑音再開

年齢は68歳になってしまった

活へ入ることとなつてしまつた。
しかし、そこで終わらないのが古川おやじのすごいところ。体調が回復したあと、「いつまでもヤンバルクイナではない。もう一度頑張ろう!」と決心。

卷之三

仏滅なのに…と渋っていると「飛べる時
飛んどかなんだら…！」と言うので、運
を天に任せ、チャレンジしました。ガ
チガチになつてブレーククリップを強く
握りしめていましたね。しかも着地の時
は両足を持ち上げてしまい…」

着地はケツランとなつてしまつたが、
無事フライト成功。その日は奥様が前もつ
て作つてくれていた大きなメッセージカード
ドを持つて記念撮影。家に帰ると娘さん
がお祝いの花束を用意して待つていてく
れていて、また記念撮影。スクールのメ
ンバーにも、家族にも、心から愛されて

ブルを出してお茶を淹れてくれ、お菓子まで用意してきてくれるという。

「いやあ、癒されますよ。ふたりがエリアに来るようになつて、これまであまりエリアに顔を出さなかつたメンバーも、以前より頻繁に来るようになりましたね」

と棕本校長。古川おやじと、仲睦まじい奥様は、今やエリアの人気者だ。

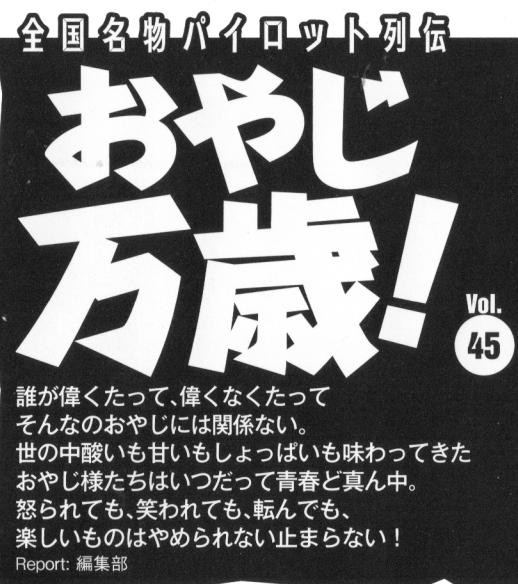
徳島県の吉野川、那賀川のエリアで活動している、老舗パラモータースクール「スカイフリーク」。棕本校長は、ハンググライダー、パラグライダー、パラモーターと30年以上にわたりスカイスポーツをやってきた大ベテラン。2007年、2014年と2度のパラモーター世界選手権にも出場。JHFの補助動力委員でもあり、JPMIAの理事も務める重鎮だ。

そんな棕本校長のもとに約2年前に入門してきたのが、今回紹介する古川おやじ。今や週に3日はエリアに来て、気づくと皆に囲まれているという明るいムード

はそこで胆道癌が見つかったのだ。
驚く間もなく緊急入院することになり、翌8月には手術。その後、長い療養生活が始まった。9月、ふと病院の窓から空高く舞っているトンビを見て「もし治つて元気になつたら、あのトンビのように



ヘリボーン作戦ヘリから
降下訓練中(1968年)。



今回のおやじ：古川 啓一（ふるかわ けいいち）さん
1948年6月7日生まれ（68歳） 徳島県名西郡在住 お仕事：無職 使用機材：OZONE SPARK
ホームエリア：那賀川エリア（徳島県阿南市）、吉野川エリア（徳島県吉野川市）
キャリア：1年10ヶ月

の、おやじによる、おやじのためのこの企画。今や全国で着々とその存在感を広め、このスポーツを陰で支えるおやじ達の生態を突撃インタビューで紹介していきます。今回は、徳島県あたりに蔓延るおやじ群の一人、古川おやじのご紹介なのです。

陸上自衛隊の消防隊 時代の放水訓練にて。 はス防隊



陸上自衛隊の消防隊
時代の放水訓練にて。

必要なかを知るべく手に取つたのが、イカロス出版の「パラグライダーにチャレンジ」。これを読むことで、飛ぶ原理や必要な道具などの知識を身につけた。しかし、本に掲載しているスクールリストには徳島県のスクールがなく、インターネットで検索し、スカイフレークに辿り着く。意を決して電話をしてみると、榎本校長が「今、那賀川の河川敷で練習しているから、見に来たら?」と言つてくれた。これが2015年5月のことだ。

クールバスの乗務員や家電サービスマンなどの仕事に従事し、忙しくも充実した日々を過ごしていた。ところが2013年7月、集団検診で「異常がある」と言われ精密検査を受けることに。そこで、胆道癌が見つかったのだ。

驚く間もなく緊急入院することになり、翌8月には手術。その後、長い療養生活が始まった。9月、ふと病院の窓から空高く舞っているトンビを見て「もし治つて元気になつたら、あのトンビのように空を飛んでみたい」と思ったという。そんな思いを胸にリハビリに励んだ。10月退院後、通院治療とリハビリトレーニングに努めた結果、1年半後には日常生活と軽い運動ができるまでに回復した。淡く抱いていた空への思い。「思いを夢で終わらせないためには? 実現させるためには?」と考へ、ハンググライダー、パラグライダー、パラモーターなどのいろいろな方法のうち、「防災士の私は人命救助にも応用できるパラモーターで飛ぼう!」と決心する。

